

## スペイン語前置詞句内における前置詞と冠詞の関係

小股 花翠

(言語文化学部 スペイン語専攻)

キーワード：スペイン語、前置詞句、前置詞、冠詞、コーパス調査

### 0. はじめに

スペイン語の前置詞句内において前置詞に名詞句が続くとき、その名詞は定冠詞が共起する場合、不定冠詞が共起する場合、無冠詞になる場合の3つに分類することができる。本稿では、con, de, desde, en, para, por, sobreの7つの前置詞について、既存の研究を整理するとともに、コーパス調査を通じて後続する名詞の種類による分類を試みる。なお、例文、グロス、図表番号、和訳、文字飾りは特に断りのない限り筆者によるものである。

### 1. 前提知識

前提知識の確認として、1.1.節ではスペイン語の限定詞の体系について、1.2.節ではスペイン語の冠詞の用法について、寺崎 (1998) の記述を取りあげる。

#### 1.1. スペイン語の限定詞

寺崎 (1998: 75) によると、スペイン語の限定詞には冠詞、指示形容詞、所有形容詞、関係形容詞、疑問形容詞、数詞、不定形容詞が存在する。

#### 1.2. スペイン語の冠詞

寺崎 (1998: 75) によると、スペイン語において冠詞は限定詞に分類することができる。スペイン語における限定詞とは「名詞句の付接部を構成し、名詞の標識としてその前に現れ、性・数を類別するとともに、名詞の指示する範囲を限定する機能を持つ」語である (寺崎 (1998: 74))。スペイン語の冠詞には定冠詞と不定冠詞が存在し、どちらも性 (男性・女性) と数 (単数・複数) によって変化する。寺崎 (1998: 76-77) は、「冠詞の指示に関わる範疇には、(1) 定 / 不定のほかに (2) 特定 / 非特定および (3) 総称 / 非総称の三つの対立関係がある」とし、これら3つの範疇がスペイン語における冠詞の定性の体系を構成していると述べている。

### 2. 先行研究

本稿の先行研究として、2.1.節ではスペイン語の前置詞の分類基準に関する研究である Fernández Ramírez (1986) および Bosque (1996) を、2.2.節ではイタリア語とスペイン語の対照を通じて各言語の定冠詞の分布について明らかにした藤田 (2017) を取りあげる。2.3.節では、スペイン語の前置詞句内において前置詞に後続する名詞句の数・定性の分布についての研究である喜多田 (2018) を取りあげる。

## 2.1. Fernández Ramírez (1986) および Bosque (1996)

Fernández Ramírez (1986: 166-169) は、空間や位置を顕著に示す前置詞は無冠詞の単数名詞とより共起しにくいと述べている。そのような前置詞の具体的な例として *tras* (～の後ろで), *detrás de* (～の後ろに), *junto a* (～のそばに), *encima* (～の上に), *desde* (～から), *debajo* (～の下で), *hasta* (～まで), *sobre* (～の上に), *dentro* (中に)を挙げている。Bosque (1996: 53-54) は前述した Fernández Ramírez (1986: 166-169) の記述を引用し、*con*, *por*, *en*, *de* の4つの前置詞は無冠詞の単数名詞と共起しやすいと述べている。

## 2.2. 藤田 (2017)

藤田 (2017) は、同一文学作品のイタリア語版とスペイン語版を用いて各言語における定冠詞の分布について調査したものである。藤田 (2017: 87-89) では、イタリア語の定冠詞がスペイン語において無冠詞<sup>1</sup>として現れる例について扱っている。無冠詞名詞句と結びつきやすいスペイン語の前置詞句について藤田 (2017: 89) は「スペイン語では場所を表す機能を持つものに限らず、文法機能を担う単音節の前置詞がゼロ冠詞名詞句と結びつきやすいという傾向が見られる」と述べている。

## 2.3. 喜多田 (2018)

喜多田 (2018) は、2.1.節で挙げた Fernández Ramírez (1986) および Bosque (1996) の記述を引用しつつ、Fernández Ramírez (1986) の示した空間指示性に基づく前置詞の分類は確固たるものであるとは言い難いと指摘している。喜多田 (2018) は *de* および *de* と置換可能な前置詞 *con*, *desde*, *en*, *para*, *por*, *sobre* を調査対象として、スペイン語コーパス *esTenTen* [2011, Eu + Am] を用いたクラスター分析を通じ、これらの7前置詞の新たな分類を検討した。喜多田 (2018) が使用した検索式は以下の2つである。

検索式1: [word="前置詞"][tag="NC.\*"][tag="Fp"]

検索式2: [word="前置詞"][tag="D.\*"]?[tag="NC.S\*"][tag="Fp"]

(喜多田 (2018: 443) より引用)

喜多田 (2018) は検索式1で得られた結果をもとに、出現頻度の高い普通名詞上位100個の総用例数に占める単数形の用例数の相対頻度 $\alpha$ を算出した。その後、検索式2で得られた結果をもとに、出現頻度の高い普通名詞単数形上位100個の総用例数に占める限定詞を伴わない用例数の相対頻度 $\beta$ を算出した。これら2つの変数 $\alpha$ 、 $\beta$ を標準化したものを $Z_\alpha$ ,  $Z_\beta$ とし、7前置詞をケース、 $Z_\alpha$ ,  $Z_\beta$ を変数としたケースクラスター分析を行った。表1は $\alpha$ ,  $\beta$ および $Z_\alpha$ ,  $Z_\beta$ の数値一覧である。なお表1の数値について喜多田 (2017: 443) は、小数第三位で四捨五入したものを表記したと述べている。図1は2つの変数 $Z_\alpha$ ,  $Z_\beta$ を軸と

<sup>1</sup> 藤田 (2017) では「ゼロ冠詞」と表現されているが、指している内容は無冠詞と同義であるため、本稿では「無冠詞」に統一する。

して各ケースの平面上における座標を示した散布図であり、縦軸は  $Z_\alpha$ 、横軸は  $Z_\beta$  の数値を表している。

表 1:  $\alpha, \beta$  および  $Z_\alpha, Z_\beta$  の数値一覧

	$\alpha$	$\beta$	$Z_\alpha$	$Z_\beta$
con	0.91	0.44	0.66	0.78
de	0.78	0.55	0.11	1.27
desde	0.77	0.06	0.03	-0.92
en	0.97	0.22	0.98	-0.20
para	0.28	0.02	-2.18	-1.09
por	0.94	0.55	0.81	1.24
sobre	0.67	0.02	-0.41	-1.08

(喜多田 (2018: 443) より引用)

調査の結果、喜多田 (2018) はこれらの 7 前置詞が [con, de, por], [desde, en, para, sobre] の 2 群に分類できるとしている。これにより、Fernández Ramírez (1986) による空間指示機能に基づく前置詞の分類、および Bosque (1996) の「con, de, en, por の 4 つの前置詞が無冠詞の単数名詞と共起しやすい」という仮説には検討の余地があることを示した。

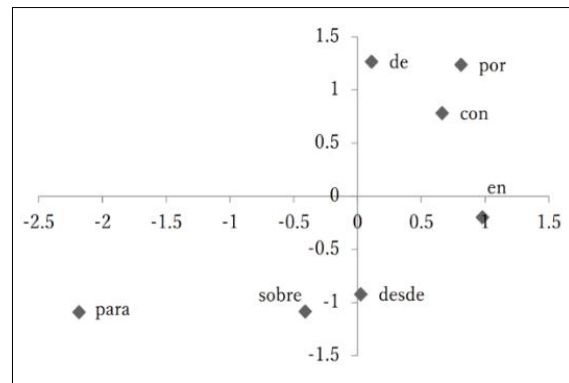


図 1: 喜多田 (2018: 444) で示された散布図

### 3. 先行研究のまとめと問題点

スペイン語の前置詞について、空間や位置を顕著に表す前置詞は無冠詞単数名詞と共起しにくいとする先行研究がある一方で、文法機能を担う単音節の前置詞が無冠詞名詞句と結びつきやすいという先行研究も見られ、前置詞の分類についての明確な指標はまだ示されていない。特に en の分類については、先行研究ごとに分類に相違がみられる。本稿では、con, de, desde, en, para, por, sobre の 7 前置詞の分類を明らかにするとともに、前置詞 en の性質について調査を行う。

### 4. 調査 I

本稿では限定詞の対象を冠詞に限り、con, de, desde, en, para, por, sobre の 7 前置詞がそれぞれどれほどの割合で定冠詞と共起する / 不定冠詞と共起する / 無冠詞名詞と共起するのかを、スペイン語コーパスを用いて調査し、後続する名詞句の傾向を明らかにする。使用するコーパスは Spanish Web corpus 2018 (esTenTen18) である。このコーパスには約 169 億語が収録されており、ヨーロッパスペイン語で書かれた web サイト、ラテンアメリカス

ペイン語で書かれた web サイトおよびスペイン語版 Wikipedia から収集した例文で構成されている。

#### 4.1. 調査方法

con, de, desde, en, para, por, sobre の 7 前置詞ごとにコーパスで検索をかけ、無作為に抽出された「前置詞＋限定詞＋名詞」あるいは「前置詞＋名詞」の構成をとる例文 300 個を調査対象とする。調査対象となった 300 個の例文を、定冠詞と共起 / 不定冠詞と共起 / 無冠詞名詞と共起の 3 グループに分類し、それぞれのグループが例文全体に占める割合を求める。ただし、前置詞 de は定冠詞 el と結びついた際に縮約形の del という形になるため、前置詞 de の調査対象は de および del を含む例文とし、両方の結果が無作為に表示された状態から「前置詞＋限定詞＋名詞」あるいは「前置詞＋名詞」に該当する例文 300 個の抽出作業を行う。前置詞の補語が固有名詞（語頭に定冠詞を持つものを含む）、数詞、人称代名詞および指示代名詞となっている例文は調査対象から除外した。

#### 4.2. 調査結果

調査の結果を以下の表 2 に示す。表中の数字は例文の数、括弧内の数字は各前置詞ごとに収拾した例文 300 件中に占める割合を示す。表中で最も高い値は太字で、二番目に高い値は下線で示されている。なお、表中のパーセンテージは小数点第二位で四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にならない。

表 2: 7 前置詞に後続する名詞の種類とその割合

	定冠詞	不定冠詞	無冠詞	合計
de	<u>119 (39.7%)</u>	20 (6.7%)	<b>161 (53.7%)</b>	300 (100.0%)
por	<u>126 (42.0%)</u>	13 (4.3%)	<b>161 (53.7%)</b>	300 (100.0%)
con	<u>120 (40.0%)</u>	38 (12.7%)	<b>142 (47.3%)</b>	300 (100.0%)
en	<b>145 (48.3%)</b>	20 (6.7%)	<u>135 (45.0%)</u>	300 (100.0%)
sobre	<b>183 (61.0%)</b>	15 (5.0%)	<u>102 (53.7%)</u>	300 (100.0%)
para	<b>185 (61.7%)</b>	17 (5.7%)	<u>98 (32.7%)</u>	300 (100.0%)
desde	<b>230 (76.7%)</b>	27 (9.0%)	<u>43 (14.3%)</u>	300 (100.0%)
合計	1108 (52.7%)	150 (7.1%)	842 (40.1%)	2100 (100.0%)

調査の結果、desde, para, sobre は定冠詞と最も共起しやすく、con, de, por は無冠詞名詞と最も共起しやすいことが分かった。ただし con は de, por と比べて不定冠詞と共起する割合が高く、定冠詞と無冠詞の共起割合の差がやや小さくなっていた。前置詞 en に関しては、定冠詞と無冠詞の共起の割合が同程度となった。

表 2 で示した結果を踏まえ、7 前置詞ごとに無冠詞単数名詞・無冠詞複数名詞との共起割合、および各前置詞句の例文 300 件中に占める無冠詞単数名詞が後続する例文の割合も算出した。それぞれの結果を表 3、4 に示す。表中の数字は割合を、括弧内はパーセンテージを示し、最も高い値は太字で表されている。なお、表中のパーセンテージは小数点第二位で四捨五入している。

表 3: 無冠詞名詞 (単数・複数) との共起割合

	単数	複数	合計
por	<b>130 (80.7%)</b>	31 (19.3%)	161 (100.0%)
de	<b>122 (75.8%)</b>	39 (24.2%)	161 (100.0%)
con	<b>100 (70.4%)</b>	42 (29.6%)	142 (100.0%)
en	<b>90 (66.7%)</b>	45 (33.3%)	135 (100.0%)
sobre	42 (41.2%)	<b>60 (58.8%)</b>	102 (100.0%)
para	38 (38.8%)	<b>60 (61.2%)</b>	98 (100.0%)
desde	19 (44.2%)	<b>24 (55.8%)</b>	43 (100.0%)
合計	541 (64.1%)	301 (35.9%)	842 (100.0%)

表 4. 無冠詞単数名詞の共起割合

desde	para	sobre	en	con	de	por
19 (6.3%)	38 (12.7%)	42 (14.0%)	90 (30.0%)	100 (33.3%)	122 (40.7%)	130 (43.3%)

調査の結果、前置詞 en は無冠詞名詞と共起しやすい [con, de, por] 群と定冠詞付きの名詞と共起しやすい [desde, para, sobre] 群のどちらにも分類できない結果となっており、7 前置詞は [con, de, por], [en], [desde, para, sobre] のような分類を見せることが分かった。

## 5. 調査Ⅱ

調査Ⅰでの分析から、7 前置詞の性質には無冠詞名詞が深く関わっていることが予想された。そこで調査Ⅱでは、7 前置詞に後続する無冠詞名詞の意味を調べ、例文中における無冠詞名詞の用法を分析した。

### 5.1. 調査方法

調査Ⅰで収集・分析した例文のうち、無冠詞名詞が後続する例文を調査対象とする。7 前置詞に後続する名詞の意味とその用例数を無冠詞単数名詞・無冠詞複数名詞に分けてカウントし、前置詞ごとにその結果と例文を比較して、前置詞によって個別の特徴的な傾向があるかどうかを調査する。

## 5.2. 調査結果

### 5.2.1. con, de, por

分析の結果、con に後続する無冠詞単数名詞には具体的な事物を指す名詞から抽象名詞まで幅広い種類の名詞が見られた。用法については、con の基本的な意味である「～と一緒に」という随伴の意味のほかに、手段や材料を表す con として用いられる例文が見られた。無冠詞複数名詞も無冠詞単数名詞が後続する際と同様に幅広い名詞が見られたが、con の用法に異なる点が見られた。無冠詞複数名詞の共起する con には、「～と一緒に」や「～を持った」といった随伴の意味で用いられる例が散見された。

de に後続する無冠詞単数名詞については、con に後続する無冠詞単数名詞に比べて、aluminio「アルミニウム」、fécula「でんぷん」といった材質を示す名詞のほか、acoso「執拗な追及」、suspensión「吊るすこと、停止」といった抽象的な名詞が多く見られた(122 件中 12 件)。用法については、性質や役割、材質を表す de として用いられる例が見られた。de に後続する無冠詞複数名詞については、無冠詞単数名詞と比べると actor「俳優、役者」や diabético「糖尿病患者」のような具体性のある名詞が中心となって出現していた。用法に関しては、所有や所属を表す de として用いられる例が多く見られた。

por は無冠詞単数名詞が無冠詞名詞の大半を占めており(無冠詞名詞 161 件中 130 件、約 80.7%)、さらに por orden「～の順に」、por ejemplo「例えば」、por correo electrónico「電子メールを通じて」のような慣用的表現が 130 件中 66 件(50.8%)含まれていた。その他の例については、方法・手段を表す por や割合を表す por として用いられている例が見られた。無冠詞複数名詞が後続する場合に関しては、受動文の動作主あるいは理由を表す por と共起する場合は 31 件中 12 件(40.0%)見られた。

### 5.2.2. en

en に後続する無冠詞単数名詞には、具体的な事物を示す名詞および抽象名詞の双方が含まれていた。加えて、en に続く無冠詞単数名詞が en función de「～に応じて」、en medio de「～の真ん中に」、en torno a「～の周りに、～に関して、およそ～」、en realidad「実は」、en sintonía con「～と合った」のように慣用表現の一部として現れる例が 90 件中 18 件(20.0%)観察された。喜多田(2018)において、en は場所を表す前置詞としての性質に注目がされていたが、実際には en は場所以外の用法で使われることも頻繁にあり、en の持つ意味の広さゆえに分類の基準が不透明になっていたのだと考えられる。en の場所以外の用法については、以下の例文(1)、(2)に一例を示す。

(1) Te permite comunicación en tiempo real.

2SG.DAT allow.3SG.IND.PRS communication.F in time.M actual

「それはリアルタイムでのコミュニケーションを可能にします。」

(2) El victimismo es la última moda en política...

DEF.M.SG victimization.M be.3SG.IND.PRS DEF.F latest.F trend.F of politics.F

「被害者意識を持つことが昨今の政治のトレンドになっています...」

例文 (1) では en は時間を表しており、例文 (2) では「～において」と分野・範疇の用法で用いられていることが分かる。

en に無冠詞複数名詞が後続する場合も、場所を示す en 以外の用法が多く見られた。

- (3) También es muy utilizado en régimen-es de adelgazamiento...  
also be.3SG.IND.PRS very use.M.PTCL.PST in way.M-PL of weight loss.M  
「これは痩身法としてもよく使われています。…」

- (4) “Curso de Seguridad Internet en router-s Cisco”  
course.M of security.F internet in router.M-PL Cisco.  
「Cisco ルーターのサイバーセキュリティコース」

例文 (3) では en は分野・範疇の意味で、例文 (4) では道具の意味で用いられている。

### 5.2.3. desde, para, sobre

desde は無冠詞単数名詞・無冠詞複数名詞共に、空間の起点を表す「～から」の用法の desde と、時間や行為の起点を表す「～から」の用法の desde の共起例が観察できた。加えて、desde に無冠詞単数名詞が後続する場合においては hasta 「～まで」や a 「～へ、～に」と組み合わせて事象を列挙する用法が観察できた。

para に関しては、無冠詞単数名詞・無冠詞複数名詞ともに、行き先を表す para ではなく目的を表すものが全てであった。

sobre については、sobre に後続する無冠詞単数名詞 42 件のうち、抽象名詞は 15 件確認された。無冠詞単数名詞と sobre が共起する場合、その sobre は 42 例全てが「～について」という題材を表す用法で用いられていた。無冠詞複数名詞が後続する場合も、無冠詞単数名詞が後続する場合と同様に、題材を示す sobre と最も多く共起していた。terrenos 「土地、コート」や plataformas 「台、舞台、足場、きっかけ、乗降口」といった場所を示す複数の語は接地・空間を示す sobre と共に用いられていたが、その他の無冠詞複数名詞は総じて題材を示す sobre と共に用いられていた。

### 5.3. 調査Ⅱ結果分析

調査Ⅱの結果を要約すると以下の通りである。con, de, por の3つの前置詞については後続する無冠詞単数名詞・無冠詞複数名詞の種類が多岐にわたっているものの、無冠詞単数名詞が後続する場合と無冠詞複数名詞が後続する場合でそれぞれ用法に僅かながら差がみられることが分かった。en に関しては、調査Ⅰで [con, de, por] 群、[desde, para, sobre] 群のどちらにも分類しがたいことが判明したが、調査Ⅱの結果、en は無冠詞名詞が続く場合は場所よりも時間や分野、手段を表す用法で使われる傾向があることが分かった。en が前置詞として持つ意味の多彩さ故に、場所についてよりはっきりと示すことのできる

[desde, para, sobre] 群と無冠詞名詞の共起しやすさという点で差が出たと考えられる。desde, para, sobre の 3 つの前置詞に関しては、無冠詞名詞と共起する割合は少ないものの、数少ない無冠詞名詞との共起例の中に場所を表す以外の用法が頻繁に出現していることが観察できた。特に para と sobre は後続する名詞が無冠詞単数名詞の場合、その名詞が場所を表すものである可能性が極めて低いことが観察された。

## 6. おわりに

調査 I と II を通して判明した事柄は以下の通りである。de および de と置換可能な 7 前置詞を「無冠詞名詞との共起割合」で分類すると、無冠詞名詞と共起しやすい [con, de, por] 群、定冠詞付きの名詞と共起しやすい [desde, para, sobre] 群、そのどちらにも属さない [en] 群のような 3 分類を見せることが分かった。各 7 前置詞を後続する無冠詞名詞の意味や用法から分析していくと、con, de, por は無冠詞単数名詞が後続する場合と無冠詞複数名詞が後続する場合で用法に若干の差がみられた。前置詞 en は [con, de, por] 群、[desde, para, sobre] 群のどちらにも分類しがたい結果となっており、en が持つ意味が多彩であることにより、ただ 1 つの基準で分類を試みるのが困難になっていることが判明した。desde, para, sobre は無冠詞名詞との共起割合こそ少ないものの、その用例には「場所」以外の意味を示す用例が多数含まれていた。

今回調査対象とした 7 前置詞以外にもスペイン語には頻出の前置詞がまだ多く残っており、それらの前置詞についても後続する名詞の傾向を明らかにしていく必要がある。加えて、con の不定冠詞付きの名詞との共起割合が他の前置詞よりも高かった理由については原因を探るまでに至ることができなかった。今後は無冠詞名詞だけでなく、不定冠詞や定冠詞がつく名詞が後続する場合についても同様に調査を行い、スペイン語前置詞句における冠詞と後続する名詞の関係の全貌を明らかにしていく必要がある。

[略号一覧] - morpheme boundary / 2 2nd person / 3 3rd person / DAT dative / DEF definite / F feminine / IND indicative / M masculine / PL plural / PRS present / PTCL particle / SG singular

[参考文献] Bosque, Ignacio (1996) *El sustantivo sin determinación*. Madrid: Visor Libros. / Fernández Ramírez, Salvador (1985) *Gramática Española. segunda edición 3.2 El pronombre*. Madrid: Arco Libros. / 藤田健 (2017) 「スペイン語とイタリア語における定冠詞の分布について」『北海道言語文化研究』15: 71-93. / 喜多田敏嵩 (2018) 「スペイン語における前置詞句の数・定性：7 前置詞のクラスタリング」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3: 436-447. / 高垣敏博 (監) (2007) 『西和中辞典〔第 2 版〕』東京: 小学館. / 寺崎英樹 (1998) 『スペイン語文法の構造』東京: 大学書林.

[参考資料] Diccionario de la lengua española: <https://dle.rae.es/> (最終閲覧日: 2022 年 12 月 5 日) / Spanish Web corpus 2018 (esTenTen18): [https://app.sketchengine.eu/#dashboard?corpname=preloaded%2Festenten18\\_fl6](https://app.sketchengine.eu/#dashboard?corpname=preloaded%2Festenten18_fl6) (最終閲覧日: 2022 年 12 月 5 日)